

## 原 著

懐かしい昭和時代の映像視聴による認知症高齢者  
および介護職員の心身反応堤 雅恵, 末永弘美<sup>1)</sup>, 永田千鶴, 野垣 宏, 児玉悦子<sup>2)</sup>, 磯村由美<sup>3)</sup>

山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 地域・老年看護学 宇部市南小串1丁目1-1 (〒755-8505)

山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 病態検査学<sup>1)</sup> 宇部市南小串1丁目1-1 (〒755-8505)宇部リハビリテーション病院<sup>2)</sup> 宇部市大字西岐波229番地の3 (〒755-0151)宇部フロンティア大学看護学部看護学科<sup>3)</sup> 宇部市文京台2丁目1-1 (〒755-0805)

Key words : 認知症高齢者, 介護職員, 昭和時代の映像, 心身反応, アクティビティケア

## 和文抄録

## 諸 言

目的：本研究の目的は、楽しく心地よいと感じる映像を用いて簡単に実施できる静的・受動的アクティビティケアの効果と実施可能性を、脈拍、血圧、自律神経活動バランスLF/HFを測定するとともに視聴中の利用者の表情と映像への興味・関心の程度を観察することで検討し、介護現場や在宅ケアでの活用のエビデンスを得ることである。

方法：認知症対応型共同生活介護(グループホーム)1施設に入居していた利用者12人および介護職員12人を対象にして、20分に構成した昭和時代の生活の様子や遊びの映像の視聴を行った。

結果：利用者、介護職員ともに、視聴の前後で脈拍、血圧、自律神経活動バランスLF/HFに有意差はみられなかったが、利用者全員が映像に20分間強い興味・関心を示し、途中退席することはなかった。

結論：本研究の結果から、個別の好みの映像を選択することを考慮した上で、映像を用いた静的・受動的アクティビティケアを介護現場や在宅ケアで活用する意義があると考えられる。

認知症高齢者の行動・心理症状 (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia : BPSD) は、個別の見当識障害や判断力障害などの基本症状を背景とし、不安感・不快感・被害感・ストレス・焦燥感・身体不調などの要因が重なって表面化することから<sup>1)</sup>、本人が不快を感じている時に起こりやすく、逆にいえば、心地よい状態を提供することでBPSDを軽減し落ち着いた状態を維持することも可能と考えられる。

1990年代後半から、高齢者ケアの分野において実施され効果の検討が続けられてきたアクティビティケア<sup>2, 3)</sup>は、ストレスコントロールにも関与していると考えられている<sup>4)</sup>。アクティビティケアとは、「利用者の生活を活性化させるために行う、援助者からの意図的なアプローチのひとつである。援助の方法として、利用者の生活歴や趣味、特技などの情報を面接の際や日常の介護業務などから得て、本人の意向を踏まえながら、やってみたいとするアクティビティをできるよう条件整備する」とされており<sup>5)</sup>、先行研究では、屋外散策や園芸、おしゃべりなどによって睡眠障害や妄想観念・幻覚・攻撃性が改善したり徘徊が減少したりするなど、比較的活動性の高い介入の効果が多く報告されているが<sup>6-8)</sup>、身体機能が低下した人が参加しにくいという問題点も指摘

されている<sup>9)</sup>。そのような背景を踏まえ、要介護高齢者や安静を要する人に無理なく実施することを目的に、海や森林などの自然環境や昭和時代の遊びの映像を視聴する効果について実験的な検討が行われ、好みの映像を視聴した時には覚醒レベルが維持されたり、交感神経と副交感神経の活動がともに活発となって、わくわくしながらもリラックスしている状態であったりしたことが報告されている<sup>10, 11)</sup>。

認知機能が低下している人にうつ合併が多いことも考慮すると<sup>12)</sup>、映像視聴のような静的・受動的なアクティビティ<sup>13)</sup>は、活動性の高い方法よりも参加しやすく、むしろ安全で効果が高いのではないかと推察される。しかも、実施者の負担が少なく、施設や家庭においても簡単に行える。さらに、介護者と一緒に映像視聴を楽しんだり、認知症高齢者が映像に集中できれば、その時間を利用して短い休息をとったり家事を行ったりすることも期待できる。

認知症高齢者に映像を使ったアクティビティケアを行う上で懸念されることは、映像への興味が持続しなかったり、場の意味や行われることを理解できず混乱したりする可能性がある、ということである<sup>14)</sup>。そこで本研究では、認知症対応型共同生活介護（以下、グループホーム）に入居している認知症高齢者を対象として、昭和時代を回想する映像に一定時間興味を示し集中できるか、また、映像視聴が認知症高齢者や介護職員の心身反応にどのような影響があるかを検討した。

映像を用いて心身反応を調べた先行研究はあるものの<sup>10, 11, 15, 16)</sup>、認知症高齢者と介護職員とを同時に対象とした検討はみられない。DVDによる昭和時代の映像を用いて簡単に実施できる介入方法の実施可能性と効果を明らかにし、介護現場や在宅ケアにおける活用のエビデンスを得ることが本研究の目的である。

## 対象および方法

### 1. 対象

グループホーム1施設2ユニットに入居している18人の利用者のうち、著明な不整脈や座位保持困難がみられず自律神経活動測定ができ、視聴覚異常による映像視聴への支障がない12人および同数の介護職員12人を対象とした。対象とする利用者は、普段

の生活状況や健康状態を把握している施設管理者と研究者（認知症看護認定看護師）の2人で選定した。

### 2. 方法

#### 1) 調査期間

調査は、2019年7月下旬から8月上旬のうちの4日間、14～16時に実施した。

#### 2) 調査手順

調査場所を食堂から離れたくつろぎのコーナーとし、研究者は対象者に緊張感を与えないようにカジュアルな服装で、利用者と介護職員を2人1組として1組ずつ、1日に3組、①～⑤の順で調査を実施した。

①研究者（医師）が問診と触診を行い、視聴覚の異常や著明な不整脈がなく、調査が可能な状態であることを確認する。

②映像視聴前の脈拍、血圧、自律神経活動の測定を行う。

③20分間の映像視聴を1回行う。視聴中に介護職員から利用者へ声をかけることはせず、利用者から話しかけてきた場合は最小限の対応をする。利用者が途中退席した場合は引きとめない。

④認知症ケアの臨床経験をもつ研究者2人（看護師）が、視聴中の利用者の表情および興味・関心の程度を観察・記録し、映像視聴の終了直後に、利用者および介護職員から感想を聞き取る。

⑤映像視聴後の脈拍、血圧、自律神経活動の測定を行う。

このうち、映像視聴前の問診・触診および測定、視聴後の聞き取りおよび測定は、それぞれ視聴の前後10分以内に実施した。

#### 3) 映像視聴

映像は、心地よい刺激を与えると研究者が判断したものとして、昭和時代の生活の様子を回想する「懐かしの玉手箱®」（永田久美子監修）を前半に、「懐かしい昭和のワンパク時代®」（北海道放送製作）のうち「大流行したあのころの遊び」の部分の後半にして組みあわせ、20分に編集したものを用いた。映像時間を20分とした理由は2つあり、1つ目は、我々の先行研究<sup>17, 18)</sup>において、20分間、庭園を散策したり座ってながめたりすることによって高齢者の脈拍・血圧・自律神経活動に好影響があったからであり、2つ目は、睡眠不足を補う補償仮眠の時間が、終了後の眠気が最小限となる20分が最適とされていることから<sup>19)</sup>、認知症高齢者が20分間集中して視聴

することができれば、家族介護者が認知症高齢者と一緒に映像を楽しむだけでなく、短い休息をとるときや、簡単な家事もできると考えたからである。

#### 4) 自律神経活動の測定

自律神経活動の測定には「日立疲労・ストレス測定システム」を用いた(写真1)。この機器は、センサーに両手の第2指を90秒間置くだけで測定でき、先行研究に用いられている<sup>17, 18, 20, 21)</sup>。低周波成分Low Frequency (LF)は0.04~0.15Hz、高周波成分High Frequency (HF)は0.15~0.40Hzの範囲にあり、一般に、自律神経活動バランスLF/HFが高値の場合はストレス状態(交感神経優位)、低値の場合は休息状態(副交感神経優位)とみなされ、 $2.0 < LF/HF$ が高値、 $0.8 \leq LF/HF \leq 2.0$ が基準値、 $LF/HF < 0.8$ が低値と判定される。

#### 5) 映像視聴中における利用者の表情および興味・関心の程度

研究者2人が別々に、映像視聴中の利用者の表情



写真1 日立疲労・ストレス測定システムによる自律神経活動測定

および興味・関心の程度を1分単位で観察し、セラピューティック・レクリエーション評価用紙<sup>22)</sup>を参考に作成され先行研究に用いられた評価表<sup>23, 24)</sup>を用い、表情では、「4:楽しい表情が多かった」~「1:不機嫌な表情が多かった」、興味・関心では、「4:興味・関心がある様子が十分にみられた」~「1:興味・関心がある様子がまったくみられなかった」のそれぞれ4段階で記録した。この判定では、表情については楽しい表情の有無や頻度、興味・関心については映像から目を離さない、身を乗り出すなどの様子で判断し、高値であるほど参加度が高かったことを示している。

調査中は、映像に向かって横に並んで座っている対象者2人に対し、研究者2人が側面に並ぶことで、映像視聴を妨げずに観察ができるようにした(写真2)。

### 3. 分析方法

脈拍、血圧、LF/HFの測定値については、視聴前後で対応のある差の検定(Wilcoxon順位和検定)を行った。統計解析ソフトはSPSS Statistics ver.25 for Windowsを用い、有意水準は5%とした。視聴中の利用者の表情および興味・関心については、研究者2人の平均値を代表値として、12人の平均値の推移を調べた。映像視聴の直後に聞き取った感想は、結果を考察するための質的データとして、聞き取ったとおりに記載した。

### 4. 倫理的配慮

本研究は、山口大学大学院医学系研究科保健学専攻医学系研究倫理審査委員会の承認を得た後に(管理番号559)、本人および家族に説明を行い、文書による自筆の承諾を得た後に、調査を実施した。

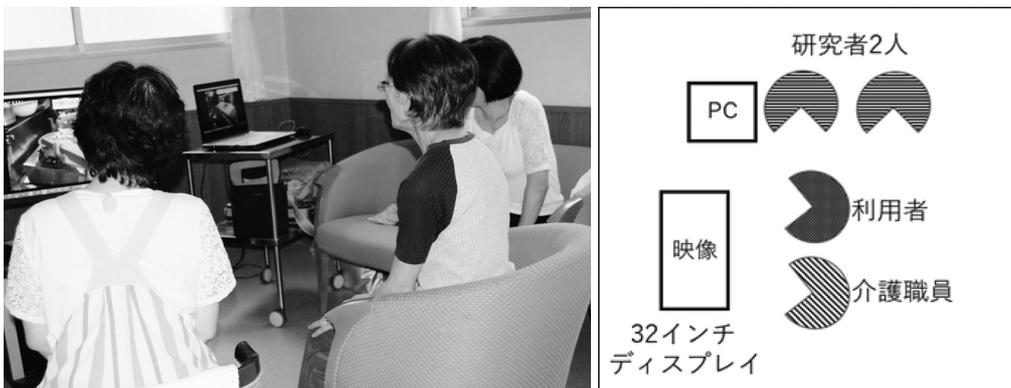


写真2 映像視聴中の様子

表1 映像視聴後の感想および前後の脈拍、血圧、自律神経バランスLF/HF

対象者	ペア (組目)	ID	年齢, 性別 要介護度* MMSE*	視聴後の感想	測定値							
					脈拍 (回/分)		血圧 (mmHg)		LF/HF		LF/HF評価	
					視聴前	視聴後	視聴前	視聴後	視聴前	視聴後	視聴前	視聴後
利用者	1	A	85歳, 女性 要介護3 15点	子どもが遊んでいるところは楽しいです。	88	—	168/86	—	—	—	—	—
	2	B	85歳, 女性 要介護1 24点	田植えが懐かしかった。	88	87	136/73	136/79	1.83	1.70	基準値	基準値
	3	C	96歳, 女性 要介護1 14点	何でもわかるけん, いいねー。	77	74	190/78	146/66	0.27	0.58	低値	低値
	4	D	89歳, 女性 要介護1 28点	あんなことあったな一つて, 昔のことが懐かしくてね。	68	71	157/80	131/76	—	—	—	—
	5	E	88歳, 女性 要介護1 17点	なんか昔を思ってたねー。(懐かしかったですか?ときくと) はい。	85	91	182/91	141/83	1.22	0.78	基準値	低値
	6	F	91歳, 女性 要介護2 13点	おもしろかったです。	54	52	120/60	107/57	0.95	3.87	基準値	高値
	7	G	92歳, 女性 要介護1 17点	うふふ.... (手を横に振って) 忘れた。	68	66	169/87	150/83	0.31	0.54	低値	低値
	8	H	76歳, 女性 要介護1 22点	おもしろかったですよ。昔のこと思い出してねー。かわいいいね, 子どもは。一生懸命やってねー。子どもは好きですよ。	70	76	127/77	138/82	2.41	0.70	高値	低値
	9	I	73歳, 女性 要介護1 19点	涙が出た。懐かしかった。	74	71	129/71	126/69	1.96	0.78	基準値	低値
	10	J	74歳, 女性 要介護3 15点	懐かしいわねー。めつたに見られませんがね。あの頃はいくつだったとか, 自由やったねー。今考えたら年取ったんだ。	94	78	130/87	138/97	—	—	—	—
	11	K	86歳, 女性 要介護2 22点	同じだったですね。(涙ぐみ) 30歳で主人が農業で亡くなった。田植えは忙しかった。機械はなかったですからねー。梅漬げとかね, いろいろありましたね。いろいろ思い出したー, いろいろ。	67	81	156/84	170/63	0.13	0.35	低値	低値
	12	L	91歳, 女性 要介護2 14点	昔を思い出すわねー, めずらしいねー。男の子, 女の子, 違いますけどね, 遊びが違いますね。なわとび, 機敏じゃないとね。あの頃は楽しかったね。昭和3年の生まれだからねー。戦争で兵隊を見送る時, 涙が出ました。	83	83	129/66	133/80	0.32	2.01	低値	高値
介護職員	1	a	57歳, 女性	懐かしさを感じました。見たことのあるもの, 共感できるものでした。	64	61	93/62	89/55	0.52	0.39	低値	低値
	2	b	30歳, 男性	昔の子どもは体力がありますね。現在の子どもは体力の低下を感じました。両親の時代を改めて見て, 実感しました。	85	85	116/70	126/79	0.81	1.28	基準値	基準値
	3	c	72歳, 女性	懐かしかったです。昔の生活は子どもにとって幸せだったと思います。昔はすばらしかった。今はこわい時代ですもんね。	74	69	119/78	137/83	1.57	0.67	基準値	低値
	4	d	52歳, 女性	梅干しの作り方など, 懐かしい感じがしました。利用者には梅干しの作り方を教わって, 勉強になったこともありますよ。	74	68	97/62	88/64	5.59	1.01	高値	基準値
	5	e	20歳, 女性	昔の遊びのことは, 親から聞いていました。今の子どもは外で遊びませんよね。	83	83	106/69	99/70	0.50	0.57	低値	低値
	6	f	63歳, 女性	昔遊んでいたフラフープ, ドッジボール, だっこちゃん人形。稲刈りも懐かしく見ました。	55	57	136/86	147/90	1.21	1.02	基準値	基準値
	7	g	63歳, 女性	昔は子どもが外で遊んでいましたね。遊ぶことの協調性があったと思います。最近は子ども同士のかかわりが少なくなったと思います。昔が懐かしいです。	70	72	138/75	128/75	3.88	0.13	高値	低値
	8	h	73歳, 女性	素朴でいいですね。今の遊びは遊びじゃない気がします。昔はルールを守って遊んでいましたね。	71	67	134/77	136/81	1.52	1.55	基準値	基準値
	9	i	62歳, 女性	だっこちゃん人形とフラフープは懐かしかったです。あの頃, 自分はいくつだったかなあ。	75	86	149/80	168/99	0.75	0.72	低値	低値
	10	j	61歳, 女性	とても懐かしく, 自分も子どもの時に経験したことが多かったです。あの頃は大変で, 生活すること自体に家族がかかわっていました。今は, 家族は別々。梅干しも各家庭で漬けていました。豆も子どもがむいて, 生活することで家族がまとまっていたと思います。	94	65	99/64	131/78	—	—	—	—
	11	k	64歳, 女性	懐かしかったです。今とだいぶ違いますね。チョークで道に絵を描いて, だっこちゃんとか。私たちの子どもの頃の方が, のびのびしてよかったです。	59	57	96/65	94/63	1.12	1.17	基準値	基準値
	12	l	27歳, 女性	高齢者にとっては懐かしいですよ。昔の流行など, 勉強になりました。	81	70	142/99	141/96	0.99	0.63	基準値	低値

\*要介護度・MMSEは利用者のみ

2つのDVDを組み合わせる編集を行い介入に用いたことについては、電話とメールによって監修者および製作者の許可を得た。また、調査時に利用者が緊張することを避けるため、研究者は調査前に3回、対象施設を訪れ、挨拶をかわしたり会話をしたりした。さらに、自律神経活動測定では、利用者よりも先にペアの相手である介護職員を測定し、苦痛なく簡単に測定できることを利用者が見て安心できるようにした。本研究にあたり、利益相反に相当する事項はない。

## 結 果

### 1. 対象者の属性

利用者12人は全て女性で認知症の診断を受けており、年齢は73~96歳で平均±標準偏差は85.5±7.7歳、要介護度は1~3 (1.4±0.7)、Mini-Mental State Examination (MMSE) は13~24 (18.3±4.7) で、グループホームに入居する前は徘徊や攻撃的行動などが見られたものの、調査時点において日常生活に支障をきたす程度のBPSDが現れている人はいなかった。介護職員の性別は男性1人、女性11人で、年齢は20~73歳 (53.7±17.9歳) であった。

### 2. 対象者ごとにみた映像視聴後の感想および前後の脈拍、血圧、自律神経バランスLF/HF

映像視聴後の感想と、視聴前後の測定値を表1に示す。A~Lが利用者を、a~lが介護職員を表しており、調査はAとa、Bとbという組み合わせで実施した。

なお、利用者のうち2人 (D氏とJ氏) と介護職員12人のうち1人 (j氏) は、触診で感知できなかった微小な不整脈をセンサーがとらえてエラーを表示したため、自律神経活動の測定値が得られなかった。また、利用者のうち1人 (A氏) は、視聴後に

そわそわした様子で、座って測定することができなかった。この事例は一旦自室に入ったがすぐに調査場所に戻り、調査の時とは別の椅子に座って映像を見ていた。

視聴後の感想では、対象者24人中14人から「懐かしかった (懐かしい)」という言葉が聞かれたが、K氏からは「30歳で主人が農薬で亡くなった」、L氏からは「戦争で兵隊を見送る時、涙が出ました」という感想が聞かれた。測定値では、C氏とE氏の2人は血圧の低下を認め、H氏はLF/HFが2.41 (高値) から0.7 (低値) となっていた。介護職員においても、d氏のLF/HFが5.59 (高値) から1.01 (基準値) になるなどの変化がみられた。

### 3. 映像視聴前後の脈拍、血圧、自律神経バランス LF/HFの比較

視聴前後での測定値の比較を表2に示す。全体としては、いずれの値も有意差を認めなかった。

### 4. 映像視聴中の表情および興味・関心

利用者全員が昭和時代を回想する映像に20分間持続的に興味・関心を示し、途中退席することはなかった。視聴中の利用者の表情および興味・関心の平均値と標準偏差の推移を、映像の内容と対応して図1に示す。12人を対象に、1人20分、1分単位のデータを収集したため、データ数は表情と興味・関心それぞれ240となり、そのうち表情では168データ (70%)、興味・関心では208データ (86.7%) の判定値が、研究者2人で一致した。

## 考 察

### 1. 映像に対する反応

#### 1) 利用者

この調査では、利用者が映像視聴の途中で退席する様子がまったくみられず、視聴後は「懐かしかった

表2 映像視聴前後の脈拍、血圧、自律神経バランスLF/HFの比較

測定項目	n	利用者		p	n	介護職員		p
		視聴前	視聴後			視聴前	視聴後	
脈拍 回/分	11	75.3±11.5	75.5±10.7	0.878	12	73.8±11.1	70.0±10.1	0.125
収縮期血圧 mmHg	11	147.7±24.3	137.8±15.6	0.203	12	118.8±20.4	123.7±25.6	0.307
拡張期血圧 mmHg	11	77.6±9.6	75.9±11.3	0.722	12	73.9±11.0	77.8±13.4	0.100
LF/HF	9	1.04±0.86	1.26±1.13	0.767	11	1.68±1.60	0.83±0.42	0.142

Wilcoxon順位と検定 n.s.

<20分映像>

時間 (分目)	映像内容	表情				興味・関心			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	「朝ごはんを作るお母さんのお手伝い」 親子3人で豆（えんどう・きぬさや）の下処理。「今朝のお味噌汁の具は何でしょう？」お母さんがネギを切り、ネギと豆をみそ汁の鍋に入れる。手の上で豆腐を切る。	[Line graph showing expression levels for item 1]				[Line graph showing interest/attention levels for item 1]			
2	豆腐を鍋の中に入れてかき混ぜる。お椀によそい「美味しそうなお味噌汁の出来上がり！」 1:45～「梅を漬ける」 ボールに梅を入れ、流水で洗う。	[Line graph showing expression levels for item 2]				[Line graph showing interest/attention levels for item 2]			
3	きれいな水が張られたボールに梅を移す。「梅は、一つひとつのヘタを取り除きましょう」	[Line graph showing expression levels for item 3]				[Line graph showing interest/attention levels for item 3]			
4	容器をアルコール消毒する。アルコールを布巾につけて壺を拭く。「梅の一つひとつに塩をまぶします」	[Line graph showing expression levels for item 4]				[Line graph showing interest/attention levels for item 4]			
5	塩をまぶした梅を壺に敷き詰め、上から塩をまき、重しをのせ蓋をする。「暗く涼しい場所で休ませます」「2か月後にはこんなきれいな梅干しが出来ました」 4:45～「田植え」 「5月は田植えの季節」	[Line graph showing expression levels for item 5]				[Line graph showing interest/attention levels for item 5]			
6	農家のお父さんが苗の手植えをする。「子供たちは初めてのぬかるみに恐る恐る」	[Line graph showing expression levels for item 6]				[Line graph showing interest/attention levels for item 6]			
7	小学生が苗の手植え体験をする。「みんなで並んできれいに植えていきます」 小さい女の子たちも手植えを体験。足は泥まみれ。	[Line graph showing expression levels for item 7]				[Line graph showing interest/attention levels for item 7]			
8	「十五夜」 「今年の十五夜は9月13日（金）です」「白玉粉をこねてきれいなお団子を作りましょう」「きれいにできたお団子を三方に盛りつけて」「銀杏と里芋」「リンゴ さつまいも ニガウリ」	[Line graph showing expression levels for item 8]				[Line graph showing interest/attention levels for item 8]			
9	「ススキを飾ってお月見の準備ができました」「遠い山に日が落ちて」「やがてきれいなお月さまが」 8:43～「稲刈り」 「5月に植えた苗が黄金色に実りました」 田んぼに立つつかかし。	[Line graph showing expression levels for item 9]				[Line graph showing interest/attention levels for item 9]			
10	農家のお母さんがコンバインで稲を刈っていく。農家のお父さんが竹を組む。	[Line graph showing expression levels for item 10]				[Line graph showing interest/attention levels for item 10]			
11	「刈り取った稲を稲架（木）にかけて乾燥」「きれいなお米ができました」「残された藁は来年度の田んぼのための肥料」 「大流行したあの頃の遊び」 10:35～回廊塔	[Line graph showing expression levels for item 11]				[Line graph showing interest/attention levels for item 11]			
12	「めんこ」「ビー玉」で子どもが遊ぶ。	[Line graph showing expression levels for item 12]				[Line graph showing interest/attention levels for item 12]			
13	「フラフラフープ」を楽しむ子どもや大人。「だっこちゃん」人形が大流行する。	[Line graph showing expression levels for item 13]				[Line graph showing interest/attention levels for item 13]			
14	昭和33年 皇太子と美智子さまのご成婚発表。街頭テレビのニュース速報を見る人だかり。美智子さまのヘアバンドが流行する。ミッチャーブーム、切手ブームも起こる。	[Line graph showing expression levels for item 14]				[Line graph showing interest/attention levels for item 14]			
15	昭和39年 東京オリンピック。聖火ランナー、記念コイン。	[Line graph showing expression levels for item 15]				[Line graph showing interest/attention levels for item 15]			
16	おもちゃの銃、刀、ボールで子どもが遊ぶ。映画の看板を見る、ツイストを踊る、木登り、道にお絵描き、ままごと、相撲をする子ども達。	[Line graph showing expression levels for item 16]				[Line graph showing interest/attention levels for item 16]			
17	男の子の間で模型飛行機作りが流行する。	[Line graph showing expression levels for item 17]				[Line graph showing interest/attention levels for item 17]			
18	模型飛行機といえば札幌の狸小路の専門店。プラモデルも豊富にそろっていた。戦車のプラモデルで遊ぶ男の子たち。そろばんを習うことが大きなブーム。書道教室も。	[Line graph showing expression levels for item 18]				[Line graph showing interest/attention levels for item 18]			
19	雪ざり、スキー遊びをする子どもたち。雪上でチャンバラ遊び。	[Line graph showing expression levels for item 19]				[Line graph showing interest/attention levels for item 19]			
20	長嶋選手と金田投手の野球対決を街頭テレビで観戦する人々。草野球をする子ども達は、全員が背番号3。	[Line graph showing expression levels for item 20]				[Line graph showing interest/attention levels for item 20]			

表情 (楽しい表情がみられたか)  
 4:楽しい表情が多かった  
 3:どちらかといえば楽しい表情が多かった  
 2:表情に変化がなかった  
 1:不機嫌な表情が多かった

興味・関心 (興味・関心がみられたか)  
 4:興味・関心がある様子が十分にみられた  
 3:興味・関心がある様子がおおむねみられた  
 2:興味・関心がある様子があまりみられなかった  
 1:興味・関心がある様子がまったくみられなかった

図1 映像内容および利用者の表情と興味・関心の推移 (n=12)

(懐かしい)」という感想を多く述べていた。映像の視聴後にそれぞれ測定ができなかったA氏も、調査場所に戻って再び映像を視聴していた。この事例は視聴後に「子どもが遊んでいるところは楽しいです」という感想を述べたことから、映像を心地よく感じていたと推測される。

利用者全員の興味・関心の平均は3（興味・関心がある様子がおおむねみられた）から4（興味・関心がある様子が十分にみられた）の範囲にあり、天井効果のために視聴中の変化がとらえ切れなかった可能性はあるものの、高い評価が示された。一方、表情は、3（どちらかといえば楽しい表情が多かった）から2（表情に変化がなかった）の範囲であり、興味・関心よりも低値で推移したものの、田んぼのぬかるみに子ども達がおそろおそろ入っていく様子や、「フラフープ」で遊んだり、「だっこちゃん」人形を腕につけて歩いたりする場面では、明確な笑顔がみられた。梅干しづくりやお月見などの生活場面では、楽しいとはいえなかったものの映像を見つめて真剣な表情を呈していたため、映像に集中していたと思われる。

今回の調査では、利用者がすべて女性であった。話し手が自分の人生を振り返って過去の思い出を語り、心の安定や他者との交流を図る支援が回想法であるが<sup>25)</sup>、話し手自身が「語る」という行為をしない受動的なアクティビティであっても、自分の人生を重ねながら視聴していたと考えられる。よって、もしも対象者が男性であれば模型飛行機やチャンバラ遊びの場面の方に楽しい表情が多かった可能性もあると思われる。

## 2) 介護職員

介護職員は20歳から73歳と年齢幅が広く、20代や30代では「昔の遊びのことは、親から聞いていました。今の子どもは外で遊びませんよね」「現在の子どもの体力の低下を感じました。両親の時代を改めて見て、実感しました」「高齢者にとっては懐かしいですよ。昔の流行など、勉強になりました」と、自分の親世代と比較して現代を考えたり、高齢者の感じ方などについて学習したりする姿勢が示されていた。60代や70代では「昔はすばらしかった。今はこわい時代ですものね」「遊ぶことの協調性があつたと思います。最近子ども同士のかかわりが少なくなつたと思います」「私たちの子どもの頃の方が、

のびのびしてよかったです」と自分が体験した昭和時代の良さが述べられていた。このように、介護職員もそれぞれ自分自身の興味・関心に沿って映像を視聴していたことがうかがえた。

## 2. 映像視聴前後の脈拍、血圧、自律神経バランス LF/HF

対象者を個別にみれば、血圧の低下を認めたC氏やE氏、LF/HFが低下したH氏やd氏のように緊張が緩和されたとみられる事例もあるが、全体としては、利用者、介護職員ともに、前後の測定値に有意差を認めなかった。低値から高値へ、高値から低値へ移行するなどの個別的な変化がみられ、一定の傾向がなかったためと思われる。

## 3. 映像視聴の認知症ケアにおける活用と課題

利用者全員が興味・関心を示しながら20分間の映像を視聴したことから、認知症ケアにおいて映像視聴を活用する意義はあると思われる。視聴後に「うふふ…、忘れた」と言い、映像を記憶していなかったとみられるG氏も途中退席しなかったことは、視聴中に楽しい気持ちになれば実施可能であることを示し、映像視聴は視聴覚障害を除くさまざまな心身機能の対象者に適用できると考えられる。また、介護職員も、利用者を気にしながらというよりも自分の視点で映像を視聴していたことから、ともに楽しむことができたと思われる。しかし、比較する映像を設定していないため、この結果がこの映像ならではの反応かどうかはわからない。この点は本研究の限界である。また、今回は、利用者と介護職員がペアで視聴したが、仮に20分間、利用者が一人で視聴することができれば、家庭であれば短時間の家事を済ませたり、休息をとったりできると思われ、今後は、在宅ケアでの実施可能性を探るために、利用者が一人で20分間集中できるかを調べ、また、BPSDが顕在している人を対象とした検討を行うことが必要である。

ところで、本研究において、子ども時代の生活の様子や遊びの風景を見て「30歳で主人が農薬で亡くなった」と涙ぐんだK氏や、「戦争で兵隊を見送る時、涙が出ました」と、戦争を思い出したL氏がいたことは注目すべき結果であった。L氏は視聴前後のLF/HFが0.32（低値）から2.01（高値）になっており、映像を視聴して興奮した可能性もある。映像からどのような回想や連想があるのかは極めて個別

的であり、一人ひとりが好んで心地よくなる映像を、本人や家族からの情報を得て選択する必要がある。

情報が少ない時には、過去の時代の映像よりもむしろ視聴者の笑いを目的とした映像の方が、不快な回想や連想を避けられる可能性がある。先行研究では、認知症をもたない高齢者が漫才や落語のビデオを視聴したところ、「愉快地楽しく笑った」などの感想が聞かれるとともに、主観的幸福感や血清エンドルフィンの上昇が認められたという報告がある<sup>26)</sup>。一方、認知症高齢者を対象とした研究では、コメディ芸人が次々に帽子の形を変えていく「帽子芸」の映像を視聴した結果、重度・中等度認知症群において、笑いの回数、持続時間、強度から算出される「笑いの総得点」が低い傾向がみられ、感情状態を作り出すには「帽子芸」のスピードについて行ったりビデオの内容を理解したりする認知的処理が必要であったと考察されている<sup>16)</sup>。先述の先行研究<sup>26)</sup>においても、高齢者では長い落語のストーリーを理解することが難しかったと述べられているが、認知症高齢者では理解力の低下が際立っている可能性が高いことから、認知機能を考慮した上で対象者が好む内容を選択することが求められる。したがって、笑いを目的とした映像を用いる場合でも、どのような映像を認知症高齢者への介入に用いるかは、今後さらに探究していく必要がある。

## 結 論

映像を用いて実施する静的・受動的アクティビティケアを介護現場や在宅ケアに活用するエビデンスを得ることを目的として、グループホーム1施設に入居している利用者12人および介護職員12人を対象にした調査を行った。視聴の前後で脈拍、血圧、自律神経活動バランスLF/HFに有意差はみられなかったが、利用者全員が昭和時代を回想する映像に20分間持続的に興味・関心を示した。本研究の結果から、個別の好みを考慮した上で、映像を用いたアクティビティケアを介護現場や在宅ケアで活用する意義があると思われる。

## 引用文献

- 1) 野村豊子：非薬物療法。平井俊策監，老年期認知症ナビゲーター。メディカルビュー社。東京 2008；276-278.
- 2) 六角僚子。認知症ケアの歴史をたどる11 アクティビティケアの変遷。おはよう21 2010；21 (9)：77.
- 3) 照井孫久，今井幸充，渡邊光子，他。高齢者施設におけるアクティビティの実態。老年精医誌 2006；17 (11)：1199-1207.
- 4) 鈴木みずえ，磯和勅子。大きな可能性を秘める高齢者のアクティビティケア。コミュニティケア 2004；6 (11)：68-71.
- 5) 社会福祉士受験対策研究会編：社会福祉士用語事典。棋苑図書。東京，2000；9.
- 6) 川島 佳，本橋 豊，和田正英，他。川べりの屋外散策が入院患者と老人保健施設入所者の睡眠リズムと抑うつ状態に与える影響について。秋田公衛誌 2005；2 (1)：51-55.
- 7) 和久美恵，野垣 宏，児玉理恵。認知症高齢者の周辺症状軽減とQOL向上における作業療法の効果。日認知症ケア会誌 2012；11 (3)：648-664.
- 8) 堤 雅恵，児玉悦子，野垣 宏，他。個別のアクティビティとして夕方に行うおしゃべりが認知症事例の夜間睡眠に及ぼす効果。日認知症ケア会誌 2013；12 (2)：419-428.
- 9) 稲垣貴彦。介護老人福祉施設におけるレクリエーション活動についての実態調査。中部学院大学・中部学院短期大学部研究紀要 2011；12：129-138.
- 10) Tsutsumi M, Nogaki H, Shimizu Y, et al. Individual reactions to viewing preferred video representations of the natural environment: A comparison of mental and physical reactions. *Jpn J Nurs Sci* 2016；doi：10.1111/jjns.12131.
- 11) Suenaga H, Tsutsumi M, Nogaki H. Effects of Stimulation by Nostalgic Images on Heart Rate Variability. *Bull Yamaguchi Med Sch* 2018；65 (3-4)：37-44.
- 12) Hishikawa N, Fukui Y, Sato K, et al. Characteristic features of cognitive, affective and daily living functions of late-elderly dementia. *Geriatr Gerontol Int* 2016；16

1) 野村豊子：非薬物療法。平井俊策監，老年期認

- (4) : 458-465.
- 13) 垣内芳子：1. アクティビティ・サービスとは。アクティビティ・サービス研究協議会編，アクティビティ・サービス総論。中央法規出版。東京，2005；2-9.
- 14) 森田三佳子：痴呆。寺山久美子監，レクリエーション。第2版。三輪書店。東京，2004；198-203.
- 15) 辻裏佳子，豊田久美子。森林映像の心身反応に関する基礎的検証 森林映像療法の可能性。日看技会誌 2013；12 (2) : 23-32.
- 16) 加藤千明，田川義勝。認知症高齢者におけるビデオ視聴時の笑いの表情反応。愛知作業療法 2007；15 : 42-49.
- 17) 堤 雅恵，末永弘美，永田千鶴，他。山口ゆめ花博「健康の庭」の散策がもたらす心身反応。山口医学 2018；67 (4) : 223.
- 18) 堤 雅恵，末永弘美，永田千鶴，他。山口ゆめ花博「健康の庭」を散策した高齢者の心身反応－脈拍，血圧，自律神経バランスの変化および散策後の気分を通じた検討－。日老医誌 2020；57 (2) : 155-162.
- 19) 堀 忠雄：6 昼寝の効用。快適睡眠のすすめ。岩波新書。東京，2000；157-190.
- 20) Mizuno K, Sasaki AT, Ebisu K, et al. Hydrogen-rich water for improvements of mood, anxiety, and autonomic nerve function in daily life. *Med Gas Res* 2017；7 (4) : 247-255.
- 21) Kume S, Nishimura Y, Mizuno K, et al. Music improves subjective feelings leading to cardiac autonomic nervous modulation : A pilot study. *Front Neurosci* 2017；doi : 10.3389/fnins.2017.00108.
- 22) 小池和幸：第2章－5 記録・評価の方法。日本レクリエーション協会監，福祉レクリエーション援助の方法。中央法規出版。東京，2000；33.
- 23) 堤 雅恵：老人保健施設入所者に対する化粧の効果。山口県立大学看護学部紀要 2001；5 : 75-80.
- 24) 涌井忠昭，堤 雅恵，正木久美子，他。楽しいレクリエーション－あなたも私も今日は主役

－。総合ケア 2007；17 (6) : 96-102.

- 25) 伊波和恵，下垣 光，下山久之，他。【解説篇】第1章 回想法とは。志村ゆず，鈴木正典編，写真でみせる回想法 シナリオ篇・解説篇。弘文堂，東京，2004；64-78.
- 26) 田中愛子，市村孝雄，岩本テルヨ，他。笑いが療養生活を送る高齢者の主観的幸福感とNK細胞に与える影響。山口県立大学大学院論集 2005；6 : 65-69.

## Mental and Physical Responses to Viewing Nostalgic Showa-era Video in Older People with Dementia and Care Staffs

Masae TSUTSUMI, Hiromi SUENAGA<sup>1)</sup>,  
Chizuru NAGATA, Hiroshi NOGAKI,  
Etsuko KODAMA<sup>2)</sup> and Yumi ISOMURA<sup>3)</sup>

Faculty of Health Sciences, Yamaguchi University Graduate School of Medicine Community / Gerontological Nursing, 1-1-1 Minami Kogushi, Ube, Yamaguchi 755-8505, Japan 1) Faculty of Health Sciences, Yamaguchi University Graduate School of Medicine Clinical Laboratory Sciences, 1-1-1 Minami Kogushi, Ube, Yamaguchi 755-8505, Japan 2) Ube Rehabilitation Hospital, 229-3 Nishikiwa, Ube, Yamaguchi 755-0151, Japan 3) Department of Nursing, Faculty of Nursing Ube Frontier University, 2-1-1 Bunkyoudai, Ube, Yamaguchi 755-0805, Japan

## SUMMARY

**Aim:** The purpose of this study was to examine the effects of passive activity care with few movements and to obtain evidence of for practical use in nursing homes and home care of DVD that older people with dementia find enjoyable and comfortable, which can be easily performed by care staffs.

**Methods:** The examination was conducted by

measuring pulse rate, blood pressure, and autonomic nervous activity balance LF/HF before and after watching the video, as well as observing the facial expressions and interest in the video of the participants. Twelve older people with dementia and 12 their care staffs in one group home watched a 20-minute video of daily life and play scenes in the Showa era.

**Results:** There was no significant difference in pulse rate, blood pressure, and autonomic nervous

activity balance LF/HF before and after viewing, but all the participants with dementia showed strong interest in the video for 20 minutes and did not leave the place during the viewing.

**Conclusions:** The results indicated that the passive activity care using video can be useful for older people with dementia in nursing homes and home care, taking into account the selection of the video of individual preference.